

2016年11月1日(火)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 お待たせをいたしました。

ただいまより平成28年11月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

最初にお知らせを申し上げます。記者クラブのほうに異動がございまして、本日初めてこの会見に参加されます記者の方をご紹介申し上げます。

【記者】 (挨拶)

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表の質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思っております。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、ご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後は切っていただきますようお願いいたします。

終了は14時30分を予定いたしております。ご協力お願い申し上げます。

それでは、市長、よろしく申し上げます。

【市長】 では、11月の定例記者会見ということで、よろしくお願いいたします。

新しい記者さんもふえまして、にぎやかになるのかなと思っておりますが、よろしくお願いいたします。

11月につきましては、「銀河鉄道999」のコスチュームを商店街で用意していただいて貸し出しますよということがありまして、3日からは、ミライエが民間の力で、またLEDのイルミネーションをつくっていただいたりしております。少しずつ民間の方たちの活力が前に出てきたのかなということで、期待をしているところでもございます。

また、博物館のほうは国の重要文化財ということを指定いただきましたので、ますますそこも活性化していきたいと思っております。

きょうはどうぞよろしく申し上げます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、事業発表をお願いいたします。

【市長】 発表項目は2つであります。

1つ目は、平成28年度の除雪排雪計画についてということでありまして、11月15日から来年の3月31日までを除雪期間として、除雪排雪計画を立て、実施いたします。除雪作業につきましては、車道及び歩道の除雪を敦賀市土木協会、敦賀市管工事組合、造園組合、その他協力事業者へ委託し、実施いたします。除雪機械の台数強化につきましては、今年度も除雪機械購入費補助金を活用し、除雪委託業者が新たに5台、除雪機械を購入いたしました。このことにより除雪作業の時間短縮が図れるものと考えております。排雪場所につきましては、和久野橋下流——黒河川左岸なんですけれども——及び敦賀市総合運動公園西側駐車場の2カ所を指定しておりますので、よろしくお願いいたします。

2つ目ですけれども、敦賀市のエネルギー構造転換理解促進事業の活用についてということで、平成28年度より資源エネルギー庁において廃炉自治体等への支援策として設計されましたエネルギー構造転換理解促進事業につきまして、10月4日付で申請を行いました。

申請内容は、ハーモニアスポリス構想の一環として、構想圏域6市町における水素社会の形成に向けた調査業務であります。今年度の業務内容は、調和型水素社会の形成に向けて水素エネルギーに関連する企業の状況調査やヒアリング調査といった可能性調査であります。これを足がかりとして、次年度には広域的な水素サプライチェーンの形成に向けた計画策定に本格的に取り組んでいきたいと考えているところです。

以上です。よろしく申し上げます。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、ただいま発表いたしました項目について質問を受けたいと思います。

最初に、幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 敦賀市のエネルギー構造転換理解促進事業なんですけれども、複数年度にわたって申請されていく形になると思うんですが、ハードに対しても助成がおりるような仕組みになっていると思いますが、計画策定のあとどういうものを考えているのかももう少し具体的に教えていただきたいと思います。

【市長】 では、細かい内容については部長のほうからお答えします。

【企画政策部長】 お手元の配付資料にあるかと思いますが、エネルギー構造転換理解促進事業補助金応募申請書というのがあるかと思います。こちらのほうをめくっていただきますと、まず2ページのほうに目的が書いてございまして、その後、3ページ以降に年度ごとの3つに分けました取り組みの具体的な内容について書いてございます。

まず工程といたしまして、3ページをごらんいただきますと、中段以降、28年度と29年度につきましては調査・計画策定期間を設けまして、ハーモニアスポリス構想の一環としまして、圏域内自治体とともに圏域内における水素社会形成に向けて、各市町が保有する再生可能エネルギーや水素エネルギーの要素技術・産業や地域資源等の調査を実施するとともに、これらを踏まえた「調和型水素社会形成計画」を策定するという内容でございます。

具体的には、滋賀県のほうでは再生可能エネルギーの関連の企業というのが結構進出ししておりまして、そういったところの可能性の調査といたしますか、水素エネルギーについての可能性調査。また敦賀とか美浜とか南越前については、どういうふうな形で参画できるかといった産業も含めての調査ということになります。3カ月間しかございませんので、この補助金につきましては翌年度へ繰り越しができませんので、3カ月間でできる可能性調査ということになります。

また、29年度におきましても当初予算で要求する予定をしております。

以上でございます。

【記者】 エネルギー構造転換理解促進事業ですけれども、このように水素の社会をということで、今回このように申請されましても、市長のお考えとして、ハーモニアスポリス構想の中で水素社会を一つの柱としていくというお考えだと思っておりますけれども、今回このような調査や6市町との協力をつなげて、どういうふうな事業としてこれから進めていきたいかというお考えがあれば、お聞かせください。

【市長】 今から始めますよということなので、どこにたどり着くかということまでしっかりはお示しできないのが今の現状かと思っておりますけれども、1号機の廃炉に伴いまして、こういうエネルギー構造転換理解促進事業ということが出てきましたので、これを利用し

ながらハーモニアスポリス構想の中で発展できればいいなということで取り組みますよというところでございます。

部長のほうから何か言えるものがありましたら言うと思います。

【企画政策部長】 どうしても今までが、従来がエネルギー政策にしましても産業構造にしましても原子力産業というのが基幹産業でございましたので、こういった産業構造の転換、強化を図りますとともに、エネルギー政策も複軸化、多軸化、そういったものを目指していきたいと、厚くしていきたいと、そういった思いでございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。発表項目につきまして質問がありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 今の水素エネルギーの件なんです、市長としてこの水素エネルギーの調査で、将来この6市町にいろんな企業が産出してほしいとかいう思いがあると思うんですが、そういう期待を教えてくださいませんか、市長の言葉で。

【市長】 水素エネルギーというのは、私らにとっては身近ではないものですから、ちょっとイメージが湧きにくいんですけども、申しわけないんですけども聞いた話によりますと、オーストラリアの褐炭を用いて水素が潤沢にとれるような技術ができたというふうに伺っていますので、オーストラリアから持ってきて太平洋側と、もう一つは日本海側のと、ということで、受け入れとして敦賀が受けれたらいいなという気持ちがあります。受け入れた上で、形態として、ガスみたいな形態になるのか電気に変えるのかということもありますし、その辺の技術的なものは私はちょっとわかりませんが、もし電気に変えるのであれば敦賀は送電線もありますので、そういう意味では優位なのかなと。ですから廃炉になることの対してのエネルギーに関連したほかの産業ということについては、これも一つ目指していきたいものだというふうに考えています。

先ほど部長言いましたように、滋賀県のほうではそういう企業もあるということですから、周りと一緒に研究拠点、もしくはサプライ拠点となればいいなと思っています。

【記者】 今の市長のお話ですと、水素を外国から輸入する日本海側の基地になればいいというお話でしたが、この資料を拝見すると、燃料電池自動車などのことも書いてあるんですが、そういう工場などもこの6市町に誘致したいというお考えなんですか。

【市長】 今どうなっていくかというのは、なかなかわからなくて、ですから自動車のガソリンスタンドみたいな、そういう自然エネルギーのステーションができたりとか何かあるんでしょうけれども、行く行くは広がっていったらいいなという。構想で申し訳ないです。まだ今から詰めていくことになります。

【記者】 今回この水素エネルギーなんです、ほかに原発にかわるというか、原発だけに頼らないエネルギー構想として、ほかにも何か構想はあるんですか。

【市長】 今、原子力とまっていますから、原子力産業プラスほかの産業ということで、複軸化ということをやっつけていかなければいけないと思っていますけれども、その中では、港の活性化も一つの方法だと思いますし、新幹線が来ることによる観光の誘客というのも一つの方法だと思いますので、可能性があるものはいろんなものやっていきたいと思っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思います。こちらも幹事社

さんからお願いいたします。

【記者】 原発で敦賀2号機なんですけれども、原電が新基準の審査を申請してからもうすぐ1年がたつんですが、まだ全然審査が進んでないような感じがするんですが、これに対する市長の受けとめと、あくまで市長としては敦賀2号の再稼働というものを期待していると考えればよろしいのか。その2点についてお伺いしたいなと思います。

【市長】 審査につきましては、順番があるんだろうと思っています。もう一つは、活断層について優先的に先にやるということをや2号機についてはたしか伺っていると思っています。早くしてほしいなということはありませんけれども、なかなか進まないんだろうなということも思っています。

もう一つ、2号機についてどうなのかということについては、私、市長になったときに皆さんに申し上げましたけれども、市長になる前は、規制委員会がこうやってだめだと言っているのに何で一事業者がその判断に反対するんだろう、おかしいんじゃないかなという気持ちがあったんですけれども、市長になりまして、それを事業者からも話を聞きまして規制委員会からも話を聞いたんですね。私は理系の人間ですから自分で判断しようと思って聞いたんですけれども、そうすると事業者の説明のほうが科学的で、いろんな知見を含めてわかりやすかった。規制委員会の説明は、それがよくわからないのでだめですというような説明に私には聞こえた。もう一回、よくわからないのもう一度説明してくださいということを言いましたけれども、なかなか突っ込んだ説明をいただけてないのが規制委員会の説明かなと思っています。そういう意味では、広い知見で公正に皆さん見てくださいねということ発信しているわけなんですけれども。

今、規制委員会のほうで審査されるというときに、きちんと見ていただければ、もう少し違った答えが出てくるんじゃないかということも思っていますので、期待をしております。

【記者】 再稼働に対しての。

【市長】 そうですね。

【記者】 もんじゅのことなんですけれども、先日、高速炉会議第2回が開かれて、次回、この間、板倉審議官がいらっしゃった際に、第3回で大きな方向性のようなものが示せればということもあって、もんじゅというか高速炉会議、もんじゅも含めて、議論が大分大詰めの段階を迎えそうな気配が出てきているんですけれども、それに関しての市長のご見解と、あと現時点で、もんじゅに対して敦賀市が今後どういうアクションをとっていくのかというようなお考えがあれば、お聞かせください。

【市長】 先週27日に第2回目の高速炉開発会議が開催されて、大きな方向観を議論したということでありました。これまで市が申し上げてきたことについては、高速炉開発会議の場でも松野大臣からご報告いただいているということもありますので、私どもの意見を踏まえて十分に検討していただけるものとは考えておりますので、議論を見守っていきたいと思っています。

ただ、これまで申し上げておりますように、もんじゅ抜きで核燃料サイクルや高速炉開発を進めていくことができるのかということについては、納得のできる説明をしていたきたいと考えておりますし、もんじゅの方向性について、仮に廃炉ということになれば、使用済燃料やナトリウムの処理をどうするのかという道筋も示していただきたいというふ

うに思っています。

今後何らかのアクションをするかということですが、現在まだ政府としては検討段階ということであり、我々の疑問にも十分に答えていただけていないという状況ですので、どっちかというボールを投げている状況かなと思っていますので、とりあえず様子を見守っているということです。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。ご質問ありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 今回の質問にも関連するんですけども、西川知事のほうは、もんじゅ関連協議会の開催を国に求めていますし、文部科学大臣、経済産業大臣らと、関係閣僚と話し合う場を要求しているわけですが、地元の敦賀市として、敦賀市の意見を直接責任者に伝える、そういう場についてはどのようにお考えですか。何かそういう場を求めるんでしょうか。それとも西川知事に託して伝えてもらうという形になるんでしょうか。

【市長】もんじゅ関連協議会ということにつきましては、知事が設置を求めたものですので、この中に私が入って意見を申し上げるということはないと思っていますし、そういう希望を申し上げるつもりもありませんけれども、福井県とは常に連携を密にして、お互いの考えを共有しようということをやっておりますので、知事が我々の思いも十分に受けとめて対応していただけるものというふうに考えています。

また直接申し上げることはということは、随時国のほうに、東京のほうへ行きまして申し上げておりますので、私どもの気持ちとすると、今の時点では十分に伝わっているというふうに理解しておりますので、それをどう判断されるかを見守っているという状況だと思えます。

【記者】 そうしますと、直接敦賀市の思いなり意見なり要望なりを聞いてもらう場を設けてほしいというような要望は、特にされるおつもりはないということでしょうか。

【市長】 直接聞いてもらえる場というのがどういう場かなんですけども、ですから、そういう関連会議を開きましたよということが聞いてもらえる場なのかどうかということですよ。ですから、それぞれ国に申し上げに、私たちの意見は言いに行っていますので、それで十分に聞いてもらう場はできているんじゃないかと思っています。ですから、ガス抜きみたいにとりあえず話を聞いたよというふうな場になってしまうというのは私ら怖いので、きちんと折々にやっていきたいと思っています。

【記者】もんじゅについてなんですが、市のトーンとして私が感じるのは、最近もんじゅの存続を求めるというトーンを余り出してないような気がするんですが、市長の考えとしては、まだ今時点でも、もんじゅはあくまで存続を求めるというお考えですか。

【市長】もんじゅは国策で進められているものですから、国策であり続ける限り、もんじゅを応援していきたいということは思っております。

【記者】今、高速炉開発会議で、次の実証炉は設計段階の開発は可能だということが確認されて、もんじゅは要らないような状況になってきて、もんじゅは国策ではなくなる可能性もあるんですが、国策でないとすれば廃炉でも仕方がないと受け入れるということですよ。

【市長】この間、板倉審議官が見えたときに、そういう話で、実証炉の設計ということをお聞きしましたら、設計図は描けるだけのところなんですということで、実際それが建

設できるかという、そういうお話ではなかったように思っております。ですからなかなかその、もんじゅを廃炉にするというところまではたどり着いてないと思っております。ですから応援するというのが今の段階ですし、もし国策でなくなったらというところになりますと、仮定のことなので、今から十分に考えていきたいと思っております。

【記者】 先日の敦賀市の原子力懇談会で、竹田先生がもんじゅは未臨界もしくは出力ゼロでも活用する手段はたくさんあるというお話しされていましたが、市としても、もんじゅフル出力、出力運転して存続を求めるんじゃないかと、とまったままでも活用できるんだから、とまったままでも置いといてほしいという考えはあるんですか。

【市長】 竹田先生の提言ということもお聞きしましたが、新規制基準との関連というのもあると思うんですね。ですから今それがどうなるかというのはちょっとわからないというのが正直なところなんです。ですから竹田先生の提言は提言として、貴重な提言ですけども、それで私らが何を判断できるかというのがいまいち詰められていないというふうに思っています。

あと済みません、先ほどのもんじゅ関連協議会というのは知事さんがされますけれども、それはそれで十分貴重な機会だと思っておりますので。私がほかの協議会を持たないというのは、また別の意味ですので、そこは分けてお願いします。

【記者】 市長は東京に行かれるたび、また国の担当者が来るたびに、地元への説明ということをかかり訴えてこられていましたけれども、かなり頻繁にいらっしゃっているような気もするんですが、現在の国の今行われている議論の説明の状況を受けて、これで十分だと、足りているのか、足りていないと感ずるのであればどういうところが足りていないのかというのを改めて教えていただけると。

【市長】 前に東京に行きましたときに、次の日に向こうの東京の話が変わったということがありましたので、非常に信頼関係を損なったというふうに思っているんですけども、それを解決するために、信頼関係を結ぶというか、もう一回構築するために、説明には頻繁に来てほしいということをお願いして、来ていただいていると思っております。ですからそういう意味では、誠意ある対応だなということは感じております。ですから文部科学副大臣、水落副大臣見えましたけれども、それもありがたいというふうに思っていますけれども、じゃそれで全部理解したのかというと、まだ足りないというふうには思っています。

【記者】 話変わるんですけども、庁舎の建てかえの件なんですけど、庁舎は建てかえが決まっちゃいないと思うんですけど、そういう方向性を中間報告で示されたんですけど、市長のお考えとしても、こっちは大丈夫らしいんですけども、あつちは震度6強で潰れるらしいんですけど、市長としては建てかえがしたいという思いなんですけど。

【市長】 今検討しているので、私がどちらかということはないかなと思っておりますが、今の現状では、確におっしゃるような2階が一番危ないので、市長室から潰れていくそうなので、何とかしたいと思っております。早くしようと思うと改築でしょうし、時間が要るので、どちらかということは、また検討していただきながらだと思います。

【記者】 最終的には議会の承認も要るんでしょうけど、現時点の市長の思いとしては、建てかえなのか改築していずれ建てかえるのか、それともすぐに建てかえを決めるのか。

どちらのほうが望ましいと思われていますか。

【市長】 今それを私、答えんほうがいいということをおもっています。まだ検討していただいておりますので。

【記者】 市長室すぐに潰れちゃうかもしれないということ。

【市長】 まだ大丈夫だと思っております。

【記者】 わかりました。

【記者】 先日、北陸新幹線に関してなんですが、鯖江市は市民団体を含めて特急の存続を実現する会というのを立ち上げて、改めて敦賀開業後も福井駅までのサンダーバード存続とか、しらすぎ存続を求めているような、機運を盛り上げていくというような雰囲気なんですが、敦賀市長として今またお考えを改めて聞かせてもらおうかなと思います。

【市長】 鯖江市さんは鯖江市さんで、ご自分たちの望ましいところを求められていくんだと思いますので、それはそれで静観しておこうかなと思っています。私らは私らで、ムービングウオーク欲しいので、ムービングウオークに向けて必死にやるだけです。

【記者】 市民団体を巻き込んで何かしないのですか。

【市長】 また考えてみます。

【記者】 先週、財務省が総務省に対して地方財政計画の見直しを求めているんですけども、これは最終的には地方交付金の減額につながる可能性があるんですけども、渚上市長としてはどのようにお考えというか、受けとめられているかをお伺いしたいんですけども。

【市長】 地方で持っている臨時対策交付金が余裕に当たるんじゃないかなということをおっしゃっているのではないかなと思いますけれども、自治体にしますと、それぞれ借金を抱えてやっていますので、決して余裕を持ってやっているわけじゃないということも十分ご理解いただきたいなと思っています。財務省さんのお話は、そういう話はやめてほしいなという正直なところと思っています。

【記者】 正月にある夷子大黒綱引きでしたかね、今回は中止ということに決まったんですけども、市として次回以降どういうふうに関与していくかというお考えというのはありますか。

【市長】 今までも当然支援はしていたわけなんですけれども、高齢化、また後継者不足で続けていかれないということをおっしゃっているということをお聞きしております。教育委員会でもいろいろ対応しようとしたんですけども、やめられるということですので。自分でそういうときってどんなときだろうと考えると、400年以上続いてきた、先祖代々つないできたものをやめてしまうというのは非常な決断だと思いますので、なかなかそこを覆すのは難しいだろうなということは思っています。ただ、当然、町内の方とか、またいろんな団体の方がもうちょっとできませんかというアプローチをしようという方はいらっしゃいますので、その動きを見守っていきたくと思っています。

【記者】 そういう市民からの動きを見守っていくという感じですか。

【市長】 はい。敦賀市がそれを市の運営として、市の行事としてやるということは、あり得ないので。民間でこそ価値がありますので、そこはどうすることもできないというところがあります。

【記者】 わかりました。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
それでは、これをもちまして11月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。
ありがとうございました。

午後2時2分 終了